



浄土憧憬

※しろうけい
|| あこがれ

亡くなった後、多くの人が願う極楽浄土への往生(おうじょう)。

戦乱の続いた平安時代末期から鎌倉時代には、浄土への憧(あこが)れが広まる中、はるか西方の極楽浄土に人々を導くとされた阿弥陀如来の像が、盛んに造られました。

今回は市内に安置されるこのようなお像のいくつかを紹介したいと思います。



市指定 木造阿弥陀如来坐像

加賀美の法善寺に安置される八幡神本地仏鏡像は、かつて葦崎市の武田八幡神社にありましたが、明治初年の神仏分離の際に法善寺に移されものです。銅製で、径47.5cmという大型の鏡板に、阿弥陀如来さまと、これに従う観音菩薩、勢至菩薩の三尊像が表されています。我が国には、仏や菩薩が人々を救うために様々なかたちで現れるという考え方があり、八幡神は阿弥陀如来の化身とされたことからこの名があります。裏面には、正応3年(1290)の墨書があり、同年に奉納されたことがわかります。

県指定 八幡神本地仏鏡像



現在、飯野の常楽寺にご本尊としてまつられる阿弥陀さまです。像高は77.5cm。平安時代末期から鎌倉時代にかけては、極楽往生を阿弥陀如来に祈る浄土信仰の広がりの中で、像の高さが約3尺(90cm)前後の阿弥陀如来立像が全国で造られました。本像もそのひとつ。若々しい少年のよようなお顔立ちや簡潔な衣の表現から鎌倉時代の前半頃の造立と考えられています。



県指定 木造阿弥陀如来立像

上の写真の阿弥陀さまは、鎌倉時代の作。現在は下今井の隆円寺に安置されています。衣には、金箔を細く切って貼り付けた造立当時のままの繊細な「切金文様(きりかねもんよう)」が残ります。またファイバースコープなどを用いた調査の結果、像内にはいくつもの「願文(がんもん)」が納められていることが明らかとなりました。この内、取り出すことができた一通二枚の願文には、阿弥陀さまにすがる「なむあみだぶつ、極楽往生を願う「みち(極楽への道行かせ給へ)」といった文言がくり返し記され、この阿弥陀さまにすがった鎌倉びとの切なる思いを知ることができます。

平成二十九年一月二十八日(土)から二月二十七日(月)まで山梨県立博物館(笛吹市御坂町)で開催される企画展「浄土憧憬」に、市内からはこの隆円寺の阿弥陀さまが、お寺のご好意により出展されることになりました。市域に生きた人々が浄土への切なる願いを込めて造立した仏像です。普段広く一般に公開されているものではないので、この機会に県立博物館に足を運んでみてはいかがでしょうか。写真文 文化財課



しやうらう
さんへまつ
るりらせ
あからせ
かならず
みち行かせ給へ
なむあみだぶつ
給へなむあみだぶつ
りんしやう
新やうほん
行一人めうしやう
なむあみだぶつと哉
あからせ給へ

像内に納められていた願文

山梨県立博物館 企画(シンボル)展
浄土憧憬

展示に関するお問い合わせ先

山梨県立博物館 TEL 二六六一二六三二

平成29年1月28日(土) ~ 2月27日(月)

山梨県立博物館

スマートフォンをお持ちの方は、上のQRコードからも展示の情報を得ることができます。また、今回紹介した仏像は、通常一般に広く公開しているものではありません。